

研究タイトル：

平安和歌の表現研究



氏名：	小池博明 / KOIKE Hiroaki	E-mail：	koike@nagano-nct.ac.jp
職名：	教授	学位：	博士(文学)
所属学会・協会：	表現学会, 和歌文学会, 中古文学会, 文体論学会, 日本語学会		
キーワード：	古今和歌集, 拾遺和歌集, 表現, 構文, 助詞, 助動詞		

技術相談
提供可能技術：

- ・
- ・
- ・

研究内容： 平安和歌の表現研究

平安和歌の表現研究は、歌枕・歌ことばといった自立語と修辭とを対象として、大きな成果をあげてきた。今後は日本語の表現に決定的な位置を占める付屬語と、それによって組み立てられる構を観点とする研究の段階を迎えている。

本研究の特徴は、古今集の構文の典型を題述構文と接続構文と捉え、古今集的表現の展開を、この2つの構文からより短詩型文学にふさわしい構文への展開と捉える点にある。

素材が限定される和歌は、よく言われるように「何」を詠むかではなく、「どのように」詠むかが肝要である。まさに表現が重視されたということである。日本語の場合、「何」すなわち事から(素材)を表すのは自立語であり、「どのように」については、付屬語が決定的な位置を占める。歌枕・歌ことばの豊かなイメージは、付屬語の巧みな使い方で、効果的に表現されたのである。歌論などで「てにをは」が重視されたり、限定された素材が類型的に詠まれる和歌にも、秀歌と平凡な歌とが生まれたりする所以である。

自立語と付屬語を合わせて考察するとは、1首全体の表現の組み立てを考察することに他ならない。したがって、1文がいかにか組み立てられるかという、構文の把握が必要であり、1首が複数文の場合は、各文がいかにか1首に統合されるかという文章構成を理解しなくてはならない。これによって、初めて1首の表現が総体として明らかになる。

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	